

## 令和5年度第1回瀬戸市総合教育会議 議事録抜粋

テーマ	委員の意見（抜粋）	まとめ
多様な教育ニーズに対応した教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、AIやICTに使われていない。むしろ、上手に使おうという意識を持っていると思う。</li> <li>・これからの社会はAIやICTなしでは生活ができない時代になっており、上手に子どもたちが使えるように、今後教育の一環としてタブレットに対する危険性について、学校だけではなく、家庭においてもしっかりと教えていくことが大切である。</li> <li>・いじめの問題や、不登校あるいは保健室登校の子どもに対してもタブレットをうまく活用して、通常授業を受けているのと同じような環境づくりが大切だと考える。</li> <li>・魅力ある教育環境を整備することが大切である。</li> <li>・清潔な空間であることも、教室環境を整える工夫の一つである。</li> <li>・コミュニティスクールを活用</li> <li>・「地域に開かれた学校作り」を安心して安全な学校に結び付ける工夫が必要</li> <li>・学校現場においても普通教室だけでなく、特別教室や体育館についても冷房設備は必要不可欠ではないか</li> <li>・どのようなユニークな教育を進めようとしても、まずは教育の場の安全や最低限の快適性が確保されていないと教育の効果も上がらない</li> <li>・年々支援を必要とする子が増えてきている。自分に自信が持てなくて、「何のために生きているのだろう」と思う子どもたちがいる</li> <li>・心ある人の配置や居場所作りなどを充実</li> </ul>	<p><b>○ICT等を有効に活用し、多様な教育ニーズに対応できる教育環境の整備。</b></p> <p><b>○安全かつ快適に学習に取り組むことのできる環境整備</b></p> <p><b>○支援を必要とする子どもたちが安心できる居場所づくり</b></p>

テーマ	委員の意見（抜粋）	まとめ
<p>ウェルビーイングの向上に繋がる教育の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肯定感というのはどういうところから生まれるかという、自分に対する自信、今までやってきたことあるいは郷土への愛情といったところが一番大きい</li> <li>・ 家族環境や教育環境も影響するが、学校としては郷土学習が非常に大切</li> <li>・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど多様な専門家の知見を活かし、協力しながら、多様な価値観に向き合えるよう全体的な枠組みで考えていく必要</li> <li>・ 我々大人がウェルビーイングを自分たち自身が感じているのだろうかと言われると、非常に難しい。社会としてまず「どういったものが、自分にとってのウェルビーイングであるか」について子どもたちに伝えていく必要がある</li> <li>・ 大人が経験してきたことで、子どもたちの手助けになることがあればきちんと伝えていかない</li> <li>・ 子どもたちに問う前に根本的な問題として大人が考えていく必要</li> <li>・ 教員のウェルビーイングについても考える必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>専門的知見を活用した支援を必要とする子どもたちへのサポート</b></li> <li>○ <b>郷土学習を通じた自己肯定感の醸成</b></li> <li>○ <b>家庭や地域の中で、大人と子どもがともに幸福感を感じられる経験が必要</b></li> <li>○ <b>教職員の幸福感の向上</b></li> </ul>